資料２

会　議　結　果

会議名　第１回　県民参加型ワークショップ（第42回県民フォーラム）に係る検討調整会議
日　時　平成30年５月８日（火）18：00～19：30
場　所　かながわ県民センター　12階　第１会議室
出席者　県民会議委員：鈴木座長　大沼副座長
施策調査専門委員会 吉村委員長
市民事業専門委員会 増田委員長
県民フォーラムチーム 森本チームリーダー
コミュニケーションチーム 豊田チームリーダー
事業モニターチーム 滝澤チームリーダー

内　容（議題）

１　水源環境保全・再生の県民参加型ワークショップ（第42回県民フォーラム）
初めに事務局から前回の県民会議（3/22開催）の提案内容について説明を行った。

２　企画内容等（⑴テーマ（コンセプト）～⑹分科会のテーマ、分化会リーダーなど）
資料により、事務局から開催（案）について説明した後、内容について企画検討を行った。

<委員からの主な意見>

⑴テーマ（コンセプト）

- ○　前回のワークショップと同じにならないように、新しいワークショップを目指してください。
- ○　会議を２部構成にしたらどうか。資料１、内容の（1）～⑶を１部、⑷～⑻を２部とし、第１部は幅広に第２部は専門意見（100人程度）とする。せっかくやるなら、話を聞いてことのない人を対象としたほうがよい。
- ○　第１部（参加者多め）・２部でねらいを分けて開催したらどうか。
- ○　大きなテーマを１つ決めて行うのが建設的であり、そのテーマは若い人達にも興味を持ってもらえるものがよい。
- ○　１部は門戸を広く、２部はそれぞれ満足していただく。レベル的に色々な意見が出てくるとまとめる方もまとまらない。
- ○　せっかくなので、前回と異なる若い世代を呼び込むしかけが必要。
- ○　名称が固いので柔らかくしたほうがよい。
- ○　名称は短く（半分くらい）したほうがよい。

⑵参加対象者

- ○　対象者は、詳しい人、開催会場周辺の人、ボランティア、県下の大学のボラクラブ、サークルなど、税を意識していない人など。
- ○　１団体から多勢だと運営に支障がでる。
- ○　森林組合や市町村の事業担当者のみが対象者となると、成果の発信という面ではどうなのか。
- ○　参加される人の中には、一言言いたいという人もいる。そういう人に言ってもらう場でもある。
- ○　若い人や大学生が大勢いると、色々な意見も出て幅広い意見交換ができるとよい。
- ○　神奈川県みどり会（県職員ＯＢ）を誘ってみてはどうか。
- ○　色々な立場の人が参加されるのはよい。県の河川部門、森林部門と連携協力していけばよいのではないか。
- ○　開催地の小中学校に発信してはどうか。そうすれば大人も小中学生と一緒に参加する。
- ○　環境・農林・土木の県議会議員へ広報を行ってみたらどうか。
- ○　ワークショップを開催するエリアの市町村議員に声かけをしてはどうか。
- ○　研修の一環として、県の職員の他部署の人が来ても面白い。

⑶ 開催日時、会場選定

○　開催候補日は、参加者が参加しやすい土曜日がよいので、12/1(土)か 12/8(土)、会場候補は、①厚木、②橋本。135 人溢れたら、小さい会議室で生中継。

○　展示については、事務局が作成するパネルを利用。

⑷ 有識者による評価発表者（森・水）

○　有識者発表は、「森・水」に分けず、例えば「経済効果」、「税金の使途」として大沼先生や吉村先生にお願いするということも考えられる。

⑸ 分科会のテーマ、分科会リーダーなど

○　分科会については、テーマを設定する必要あり、「ゴール」、「経済評価」、「県民会議そのもの」など。

○　分科会のテーマ、「森・水・税金」などが考えられるが、各委員に意見照会し、まとめる。

⑹ 資料について

○　来場者が持って帰れる資料が必要。

○　都合が悪い人向けに「資料」を公開し、色々な人から意見をもらってはどうか。

○　配布資料については、H27 のワークショップ資料のⅠのみとする案、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとする案、全体を圧縮する案などが考えられる。

○　H27 のワークショップ配布資料については、半分はこのまま使えるのではないか。

⑺ その他

○　討議、司会、書記などは公募委員にお願いしたい。

○　分科会の各部屋への誘導にも人員が必要。

水源環境保全・再生施策 県民参加型ワークショップの開催について（案）

○　第３期における総合的な評価（中間評価）ならびに次期計画への意見書の作成に向け、水源環境保全・再生施策に関する県民意見の収集等を図るため、平成 30 年度に県民参加型のワークショップ（第 42 回県民フォーラム）を開催する。

	水源環境保全・再生施策 県民参加型ワークショップ（第 42 回県民フォーラム）	
日　　時	平成 30 年 12 月上旬　13 時 00 分～17 時 00 分	
会　　場	（案１）プロミティあつぎ （案２）山北町生涯学習センター（12/1、12/2 は使用不可） （案３）サン・エールさがみはら	
ね ら い	①　これまでの施策の進捗状況ならびに成果等について参加者へ情報発信を行う。 ②　①を踏まえ、県民会議と参加者とで直接議論することにより、現行施策への意見や今後期待する取組等について、参加者からより多くの情報を引き出す。 ③　②で出た具体な意見のうち、施策に直結するものなどについては、第３期に作成する総合的な評価（中間評価）報告書や次期計画への意見書に取り入れる。（県民会議委員以外の県民意見等も幅広く反映させる。）	
主　　催	水源環境保全・再生かながわ県民会議	
参 加 者 **(約 100 名を想定)**	水源環境保全・再生施策に関心のある方ならびに団体 ・公募の一般参加者 ・市民事業支援補助金交付団体等の市民団体 ・県民会議委員ＯＢ（第１期～第４期） ・森林組合等の事業関係者、市町村の事業担当者　等	
名　　称	かながわ水源環境保全・再生施策 県民参加型ワークショップ（県民フォーラム）　～ 水源環境保全税によるこれまでの取組みとこれからの取組み ～（仮）	
内　　容	(1) 開会挨拶（県民会議 鈴木座長） (2) 県の取組紹介、研究機関による成果プレゼンテーション（森、水） ＜対象：平成 19～29 年度の 11 年間の実績・成果＞ (3) 有識者による評価発表（森、水） (4) 趣旨説明（全体会） －　分科会会議室へ移動・休憩　－ (5) 討議（分科会（４グループ）） －　全体会会議室へ移動・休憩　－ (6) 各グループの成果発表 (7) 全体での意見交換、質疑応答等 (8) 講評	5 分 60 分 30 分 5 分 10 分 60 分 10 分 20 分 30 分 10 分
開 催 後 **の 対 応**	○　ワークショップでの議論を踏まえ、「総合的な評価（中間評価）報告書」、「次期計画への意見書」を作成する。	

ワークショップ開催における施策調査専門委員会に関連する事項

ワークショップ検討会において、内容を検討中ではありますが、現段階において想定される事項としては、次のようなものを考えています。

○ 県の取組紹介、研究機関による成果プレゼンテーション(森、水)

基本的には、県側で行うこととなりますが、施策調査専門委員会の先生方の意見を参考にさせていただくことがあった場合、個別にお尋ねさせていただくことが考えられます。

○ 有識者による評価発表（森、水）

施策調査専門委員会の先生に、発表をお願いしたいと考えています。

○ 討議（グループに分かれての分科会）

分科会において意見を述べていただくことや、御専門の分野に関する質問があった場合には、御回答をお願いしたいと考えています。

○ 全体での意見交換、質疑応答等

分科会と同様に、意見を述べていただくことや、御専門の分野に関する質問があった場合には、御回答をお願いしたいと考えています。